除草2-2. 小麦除草剤

HRACコード	成分名	商品名	多年生雑草	一年生雑草	一年生雑草（ツユクサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く）	一年生雑草（イネ科を除く）	一年生広葉雑草	スズメノテッポウ	県推奨使用時期	備　考
3	ペンディメタリン	ゴーゴーサン乳剤(普)		○					は種後(雑草発生前)～小麦2葉期(ｲﾈ科雑草1葉期まで)	①水田裏作の麦に使用する場合、排水不良の畑では使用をさける。 ②土壌を細かく砕き、ていねいに整地し、種子が露出しないように注意する。 汎用除草剤の項参照
6	ベンタゾンナトリウム塩	バサグラン液剤(ナトリウム塩)(普)				○			生育期(但し、収穫45日前まで)	
9	グリホサートカリウム塩	タッチダウンiQ(普)	○(イネ科)						耕起3日以前(雑草生育期)	
				○					耕起又はは種前(雑草生育期)	
									は種後出芽前(雑草生育期)	
									適用場所:圃場内の周縁部 雑草生育期(但し、収穫3日前まで)	
9	グリホサートイソプロピルアミン塩	クサクリーン液剤 マイター液剤 草枯らしMIC		○					は種直後～麦出芽前	－
10	グルホシネートPナトリウム塩	ザクサ液剤		○					耕起又はは種前(雑草生育期)	
									収穫7日前まで(雑草生育期)	
14	ピラフルフェンエチル	エコパートフロアブル					○		小麦2～6葉期(広葉雑草2～4葉期)但し、収穫45日前まで	
									小麦止葉抽出前まで(春期広葉雑草2～4葉期)(但し、収穫45日前まで)	
									小麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2～4葉期、ﾔｴﾑｸﾞﾗ2～6節期)(但し、収穫45日前まで)	
15	プロスルホカルブ	ボクサー(普)		○					は種後～麦2葉期(雑草発生前～発生始期)	①土壌が極端に乾燥していると除草効果が劣ることがあるので、希釈水量を多めに散布するか、土壌が適度な水分を含んでいるときに散布する。 ②砂土での使用は避ける。 ③本剤の使用により、一過性の薬害(黄斑、縮葉)を生ずることがあるが、その後の生育に影響はない。 ④砕土、整地はできるだけていねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけていねいに行う。 ⑤麦類に使用する場合、次のような条件下では薬害が生ずるおそれがあるため使用を避ける。 ・水田裏作の排水不良の畑 ・散播栽培で覆土を行わない場合
5 15	プロメトリン・ベンチオカーブ	サターンバアロ粒剤(普)		○					は種後～出芽前(雑草発生前)	薬害を生じる恐れがあるので砂壌土で使用する場合は下限薬量で使用すること。
									生育初期(小麦の4葉期まで、スズメノテッポウ1．5葉期まで)	
9 14	グリホサートイソピルアミン塩・ピラフルフェンエチル	サンダーボルト007(普)	○	○					耕起前(雑草生育期)	
				○					は種後出芽前(雑草生育期)	

除草2-2. 小麦除草剤

HRACコード	成分名	商品名	多年生雑草	一年生雑草	一年生雑草（ツユクサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く）	一年生雑草（イネ科を除く）	一年生広葉雑草	スズメノテッポウ	県推奨使用時期	備　考
12 15	ジフルフェニカン・フルフェナセット	リベレーターG(普)		○					は種後～麦2葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	砂質土壌での使用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。
12 15	ジフルフェニカン・フルフェナセット	リベレーターフロアブル(普)		○					は種後～麦3葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	砂質土壌での使用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。
15 5	プロスルホカルブ・リニュロン	キックボクサー細粒剤F		○					は種後出芽前(雑草発生前)	
15 5	プロスルホカルブ・リニュロン	ムギレンジャー乳剤(普)		○					は種後出芽前(雑草発生前)	①本剤は後作物に対して影響を及ぼすことがあるので注意する。特に、あぶらな科、うり科、なす科及びまめ科の作物は影響を受けやすいので、本剤処理後3ヶ月以内にこれらを後作物として栽培しない。 ②散布の際には、隣接作物にかかると薬害を生じるので、散布液がかからないよう注意して散布する。特に風の強い時の使用はさける。 ③激しい降雨が予想される時や、水はけが悪く、冠水、浸水しやすい畑では薬害のおそれがあるので使用をさける。 ④砂壌土では黄化、生育抑制を生じる場合があるので、登録範囲内の低めの薬量で使用する。 ※　少量散布の場合は専用ノズルを使用し、土壌の全面に均一に散布すること。
15 3 5	ベンチオカーブ・ペンディメタリン・リニュロン	クリアターン乳剤(普)		○					は種直後(雑草発生前)	①砂質、排水不良、散播ほ場での使用は避ける。 ②排水不良田や過湿状態での使用は薬害の発生を招くので避ける。 ③トゲミノキツネノボタンに対してある程度効果あり。